

問1 18世紀末から19世紀半ばにかけて、日本の対外情勢は緊張を増していきました。1792年に漂流民の伊勢屋光太夫を連れて根室に來航し、通商を求めたロシアの使節は誰ですか。（2019年 大阪公立入試 類似）

1. ラクスマン                      2. レザノフ                      3. ペリー                      4. プチャーチン

問2 1842年に江戸幕府が発令した「薪水給与令」は、それまでの「異国船打払令」を和らげる方針転換でした。この重大な決定を下す要因となった、当時の東アジアの国際情勢として正しいものはどれですか。（2021年 香川公立入試 類似）

1. イギリスがアヘン戦争で清を破ったこと      2. オランダがアヘン戦争で清を破ったこと      3. アメリカが独立戦争でイギリスを破ったこと      4. ロシアが清との国境紛争に勝利したこと

問3 日本の歴史における「交易」は、単なる物の売り買いだけでなく、社会の仕組みや技術に大きな変革をもたらしました。中世から近世にかけての交易の背景や影響として、最も適切な記述を選びなさい。（2021年 千葉県公立入試 類似）

1. 16世紀の南蛮貿易によってもたらされた鉄砲や火薬の技術は、それまでの戦い方を変え、織田信長らによる天下統一の動きを加速させた。  
2. 古代から続く鉄の輸入技術は、奈良時代の平城京において仏教建築を支える唯一の手段として、ヨーロッパとの独占貿易により維持された。  
3. 江戸時代末期の開国と自由貿易の開始は、欧米列強による圧力はあったものの、幕府が国内産業を保護するために自発的に提案したものである。  
4. 古墳時代から伝わる鉄の加工技術は、主に北方の民族との交流によって発展し、それが江戸時代の鎖国下における唯一の輸出品となった。

問4 ペリーが浦賀に來航してから、大老の井伊直弼が日米修好通商条約を締結するまでの間の時期に行われた出来事として、最も適切なものはどれですか。（2021年 千葉県公立入試 類似）

1. 日米和親条約を締結し、下田と箱館の2港を開港した。  
2. 外国船を打ち払うことを命じた異国船打払令を発令した。  
3. 下関海峡を通過する外国船を砲撃し、攘夷を実行した。  
4. アメリカ領事のハリスが下田に着任し、貿易の開始を求めた。

問5 1854年に日本とアメリカの間で締結された日米和親条約において、下田と箱館（函館）の2港が開かれた主な背景について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 広島公立入試 類似）

1. 蒸気機関を搭載したアメリカ船が、航行を継続するために必要な石炭などの物資を補給する場所を求めたため。  
2. 日本の特産品であった石油を安く買い叩き、アメリカ国内の工場の動力源として活用するため。  
3. 日本各地で産出される質の高い薪を、アメリカの捕鯨船が暖を取るための燃料として独占するため。  
4. 当時のアメリカで普及し始めていた天然ガスの輸送拠点として、日本の港を中継地点にするため

問6 1854年に日本が日米和親条約を締結し、長年にわたる鎖国政策を改めて開国へと踏み出した時期の世界情勢について述べた文として、正しいものはどれですか。（2020年 沖縄公立入試 類似）

1. イギリスの植民地支配に対し、現地兵士の蜂起をきっかけとしたインド大反乱が起こった。  
2. 孫文を中心とする勢力が清を倒し、アジア初の共和国を樹立する辛亥革命が起こった。  
3. ロシアにおいてレーニンが指導者となり、世界初の社会主義政府を樹立するロシア革命が起こった。  
4. アメリカとソ連の対立が深まる中、核戦争の危機が高まったキューバ危機が起こった。

問7 1858年、江戸幕府の大老である井伊直弼が、朝廷の許可（勅許）を得ないままアメリカと結んだ条約について、その内容と性質を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2025年 千葉公立入試 類似）

1. アメリカに領事裁判権を認め、日本に関税自主権がない不平等な内容であった。  
2. 下田と箱館の2港を開港し、アメリカ船に食料や石炭を供給することを約束した。  
3. 日本が清の独立を承認し、領事裁判権を相互に認め合う対等な内容であった。  
4. イギリスとの軍事同盟を結び、ロシアの南下政策に対抗することを目的とした。

問8 19世紀、産業革命を達成したイギリスは、植民地であったインドへ向けて、機械で大量生産した製品を輸出するようになりました。これによりインドの伝統的な手工業は大きな打撃を受けました。このイギリスからの輸出品として適切なものはどれですか。（2018年 北海道公立入試 類似）

1. 綿織物                      2. 絹織物                      3. 毛織物                      4. 麻織物

問9 1857年、イギリスに雇われていたインド人兵士たちが、弾薬の包み紙に牛や豚の脂が塗られているという噂などをきっかけに、信仰上の理由から反発して引き起こした大規模な反乱を何といいますか。（2024年 栃木公立入試 類似）

1. インド大反乱                      2. 太平天国の乱                      3. 義和団事件                      4. アヘン戦争

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> <b>ラクスマン</b>	ロシアはシベリアの開発を進めるなかで日本に関心を持ち、1792年にラクスマンを派遣して通商を求めました。これは江戸幕府にとって北方からの新たな外圧の始まりとなりました。その後、1804年にはレザノフが長崎に来航していますが、幕府は依然として鎖国の方針を維持し、通商を拒否しました。
問2	<b>答え 1</b> <b>イギリスがアヘン戦争で清を破ったこと</b>	当時の幕府は、長年大国として認識していた清がイギリスに敗北したという情報をオランダ風説書などを通じて入手しました。イギリスの軍事力の強さに衝撃を受けた幕府は、従来の強硬な「異国船打払令」を継続することで日本も軍事攻撃を受ける危険があると考え、遭難した外国船に対して薪や水、食料を補給して穏やかに帰す「薪水給与令」へと方針を転換しました。
問3	<b>答え 1</b> <b>16世紀の南蛮貿易によってもたらされた鉄砲や火薬の技術は、それまでの戦い方を変え、織田信長らによる天下統一の動きを加速させた。</b>	ポルトガル人との南蛮貿易によって伝えられた鉄砲は、従来の騎馬戦術から足軽の集団戦術への転換を促しました。これを取り入れた織田信長は長篠の戦いなどで優位に立ち、国内の統一を進めました。奈良時代に交流があったのは主に中国（唐）や朝鮮半島であり、ヨーロッパとの交流は16世紀以降です。また、幕末の開国はペリーの軍艦による圧力を背景としたもので、幕府にとって自発的な提案ではありません。鉄は古代から輸入に頼る場面が多く、鎖国下の主な輸出品は銀や銅、俵物などでした。
問4	<b>答え 1</b> <b>日米和親条約を締結し、下田と箱館の2港を開港した。</b>	幕末の外交史における時系列の理解を問う問題です。1853年のペリー来航と1858年の日米修好通商条約の間には、1854年の日米和親条約の締結があります。この条約によって日本は開国しましたが、この段階ではまだ貿易は行われていません。ハリスの下田着任は日米和親条約締結後の1856年であり、その後の交渉が日米修好通商条約へとつながります。異国船打払令はペリー来航より前の時代、下関での攘夷決行は条約締結より後の出来事です。
問5	<b>答え 1</b> <b>蒸気機関を搭載したアメリカ船が、航行を継続するために必要な石炭などの物資を補給する場所を求めたため。</b>	アメリカが日本に開国を求めた大きな理由の一つは、太平洋を横断する際の「石炭補給拠点（寄港地）」の確保でした。当時の蒸気船は積載できる燃料に限りがあり、自国から中国へ向かう長距離航海を無補給で行うことは困難でした。日米和親条約では、下田と箱館の2港を開港し、石炭や薪、水などをアメリカ船に供給することが定められました。
問6	<b>答え 1</b> <b>イギリスの植民地支配に対し、現地兵士の蜂起をきっかけとしたインド大反乱が起こった。</b>	1857年に発生したインド大反乱は、イギリスの東インド会社に雇われていたインド人兵士（シパーヒー）の蜂起をきっかけに、植民地支配に対する広範な抵抗運動へと発展した出来事です。日本では1853年のペリー来航から1854年の日米和親条約締結を経て、幕末の混乱期に入っていた時期にあたります。他の選択肢は、20世紀に入ってからの出来事です。
問7	<b>答え 1</b> <b>アメリカに領事裁判権を認め、日本に関税自主権がない不平等な内容であった。</b>	日米修好通商条約は、貿易を開始するために結ばれた条約ですが、日本に在留する外国人が罪を犯しても日本の法律で裁けない「領事裁判権（治外法権）」を認め、輸入品の関税率を自国で決める「関税自主権」が日本にないなど、日本にとって不利な不平等条約でした。井伊直弼が勅許を得ずに調印したことは、後の尊王攘夷運動を激化させる要因となりました。
問8	<b>答え 1</b> <b>綿織物</b>	イギリスでは18世紀後半から産業革命が始まり、蒸気機関などの発明によって綿織物の安価な大量生産が可能になりました。これが植民地であるインドへ大量に輸出されたことで、インドの伝統的な綿織物産業は衰退し、原料の供給地および製品の市場としての性格を強めました。絹織物や毛織物は誤りです。
問9	<b>答え 1</b> <b>インド大反乱</b>	1857年に始まったこの反乱は、イギリスの植民地支配に対するインド人兵士（シパーヒー）の不満が爆発したことで発生しました。反乱は兵士だけでなく、土地を奪われた農民や権限を失った藩王など、イギリスの支配に苦しんでいた幅広い層に広がり、インド全域におよぶ民族的な抵抗運動となりました。